

安全運転診断（エールドライブ）を利用して運転支援を行った症例報告

中山聖悟 園原和樹

医療法人社団敬仁会 桔梗ヶ原病院認知症疾患医療センター

当センターには高齢者の運転免許更新に関連して受診に至る事例を多く認めるが、一般的に認知症に関係した運転技能の評価方法と判断基準は確立されていない。そこで今回は外部の運転診断サービス（エールドライブ）を用いて運転能力を評価し、運転支援を行った症例について報告する。

本例発表にあたり、個人情報の保護について説明を行い、本人・家族から同意を得た。

エールドライブとは一般社団法人高齢者安全運転診断センターが提供している高齢者安全運転診断サービスで、ドライブレコーダーで実際の運転を撮影し、運転映像データを解析し、利用者に「安全運転診断結果表」と、特徴的なシーンをまとめたDVDが提供される。

症例は76歳男性。約2年前から言葉の出にくさが出現し、今回は運転評価を目的に当センターへ受診した。一連の検査からMCIレベルの原発性進行性失語症と診断されたが、言語障害のため運転ルールに従えるか懸念されたためエールドライブを導入して運転評価を実施した。その結果、標識理解などに問題が無いことが確認され運転は可能と判断された。その後、継続的な支援を行っていく中で将来的に運転が不必要な都市地域へ住環境を変更させるというゴール設定を本人・家族が行うことができた。

今回は運転診断サービスの利用が運転評価だけでなく社会的支援にも繋がった事例であり、今後外部サービスの利用も運転評価の一つのツールとして有用である可能性が示された。